

吉野つながる日本語教室の体制づくりを考える

吉野つながる日本語教室 日高 剣士郎

●研修で設定した課題の背景、および実践の内容。

奈良県吉野町では2022年度より3年間、文化庁（現在は文部科学省）の事業である「地域日本語教育スタートアッププログラム」を活用し、日本語教室の開設を進めてきた。今年度より独立した教室の運営を行っている。毎月水曜日午後2回、土曜日午前1回の計3回の教室を開催しており、土曜日の教室は毎回、一定程度の参加者は見込めている。

しかし、地域日本語教室の存在を知らない、言葉による日常生活での困難をあまり感じていない、参加の意思はあるものの交通手段がないといった学習者がまだまだいるのではと感じている。そういった人々へも日本語学習や地域とのつながりの機会を届けることを課題に設定した。これらの人々にも日本語学習や地域とのつながりの機会を届けるため、2026年2～3月にオンライン教室を新たに開設することを目標に、2025年10月から準備を開始した。

しかし、私自身が地域日本語教育コーディネーターを他の仕事と兼業していたことが大きな要因となりワーク・ライフ・バランスをうまくとれず、心身の健康を損ねてしまい、当初予定していた実践が進められず、計画の実行を中断することになった。

この過程で、活動が個人の事情に大きく左右される現行の体制に構造的な課題があることに気付いた。

そこで、オンライン教室の準備とは別に、教室全体の運営体制や地域日本語教育コーディネーターという活動の見直しという新たな課題にも取り組む必要性が浮かび上がった。

●実践を通して「行ったこと」「考えたこと」「困難だったこと」の変遷

オンライン教室の開設に向けて実践計画を立てたものの、実践に移すことができなかった。しかし、以下のことを考えることができた。

- ・オンライン教室は有効だが、準備・運営には一定の人的リソースが不可欠であること
- ・コーディネーターを含め、教室を運営する人員が少ないと、個人の事情が活動全体に大きく影響すること
- ・体制整備を進めることも吉野つながる日本語教室の継続には必要であること

計画通りに実践を進められなかった要因として、オンライン教室の立ち上げに必要な時間と労力を確保できなかったことが挙げられる。現在の奈良県吉野町ではコーディネーターを2名配置しているが、日本語教師に関してはまだ決まった人材を確保することができておらず、コーディネーターがその役割を担うこともある。また、地域日本語教育コーディネーターという役割は、その地域に密着し、行政や関係機関と連携しながら地域日本語教室の運営等を行っていく必要があると考えるが、私自身は現在、奈良県吉野町から離れた場所に住んでいることから、その役割を果たすことができていないのではと感じている。このような点から、コーディネーターや日本語教師といった役割を、数少ない人材に頼らざるを得ない現在の体制を変える必要があると感じた。

●今回の課題解決に向けた実践を通じて、地域日本語教育コーディネーターとして果たした役割

今回の実践では、当初予定していたオンライン教室の開設を果たすことができていない。しかし、

- ・オンライン教室という新たな学習機会の方向性を示したこと
- ・活動が停滞した要因から、体制の構造的課題として捉えなおしたこと
- ・吉野町の地域日本語教育をこれからも持続可能なものとするため、体制整備が不可欠であること

以上の点を見出すことができた。

●地域日本語教育コーディネーターとして自身が大切にしたい視点と今後の展望

大切にしたい視点

1. 「潜在的な学習者」を見落とさない
2. 地域とのつながりをさらに広げる
3. 持続可能な体制づくり
4. オンラインと対面のハイブリッドな学習機会をつくる

今後の展望

今回の実践は、当初の計画通りには進まなかったものの、活動が停滞した背景を振り返ることで、地域日本語教室全体の体制の整備を進める必要があるという、より重要な課題に気付く機会となった。

潜在的な学習者へのアプローチという課題に加えて、運営体制の脆弱さという新たな課題が明確になったことは大きい。

体制の整備といっても、人材の確保・育成に焦点を当てるのか、地域日本語教育にかかる予算のさらなる確保が必要かといった点についてはこれからも考える必要がある。地域日本語教室の理念を共有し、共に教室を作り上げていく人材を育成することが地域日本語教育コーディネーターに求められた役割の一つであると考え。そういった人材を育てることで、地域日本語教室という存在が、学習者や支援者といった地域に生活する人の安心できる居場所を担保することにつながる。吉野町という歴史や自然豊かな土地で、地域性に見合った教室を見つける必要がある。中山間地域の地勢的な不利な条件があるが、そのような地域であるからこそ、オンライン教室を立ち上げる意義がある。吉野つながる日本語教室“らしさ”とは何かをコーディネーターとして探求し続けたい。